

チーム名	SO-SOリクリエイターズ	大学名・学部	日本大学 経済学部	福島復興ステージ
プラン名称	相双コレクト～Twelve memorial 今までに無いつながりを～			
テーマ	復興に向け前向きに取り組んでいる方と連携した「観光まちづくり」			
リーダー名	劉 博子	メンバー名	松村拓磨 山岡洸太 藤原真奈美 岡田泰征	
指導教職員名	横井 のり枝			

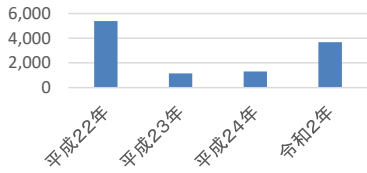
相双コレクト～Twelve memorial 今までに無いつながりを～

1 現地のニーズと問題認識

キーパーソンとの交流



大熊町役場産業課 鈴木龍一様
 大熊町役場税務課 愛場学様
 広野町役場 久田宗俊様
 相双NPOセンター 田中章広様
 なりわい館の方々



① 観光客の減少

震災や原発事故により、観光客が減少しており現在でも、震災前の状態には完璧に戻っていない

② コミュニケーションの喪失

震災により、各地に避難したことで住民同士のつながりが消えてしまいコミュニケーションを取ることができなくなった

③ マイナスイメージの発生

原発事故による、放射線濃度の上昇が農作物への風評被害に繋がっている

④ 相双文化の認知拡大

相双エリアでは、震災によって、文化の衰退や文化継承の担い手不足が問題となっている

2 解決策

広域周遊プランにより、被災地の現状を正しく理解するとともに、コミュニケーションの場を創出する

3 ターゲット

メイン: 家族連れ
サブ: 若者

将来的に、移住の可能性
があるから!!

若者や子供に流行しているものを取り込めば誘致の可能性大
密かに子供若者の間で、人気再燃しているのがガチャ

4 プラン概要



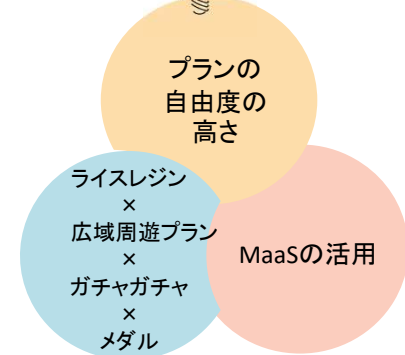
12市町村のメダルを獲得
それを使って、ガチャの景品を獲得&メダルをコレクション

自由型広域周遊プランである



メダルを獲得するために、各地をめぐり、体験をするので被災地の正しい知識を身につけられると共に地域の人たちとコミュニケーションも取れるさらに、伝統に関心を持ってもらえる可能性もある

5 新規性



6 実現計画

- ・バイオマスレジホールディングスと連携したメダルの作成
- ・一般社団法人まちづくりなみえと連携した筐体の設置や町ごとの協力
- ・現地を巡り確認した実行可能性

7 効果

- ・市町村同士での交流の創出
- ・観光客増加に伴い、地域が活性化
- ・体験により、現状を正しく理解したことで風評被害の払拭につながる
- ・体験を通して、相双文化の認知拡大につながる
- ・経済効果に関しては、メダル一枚300円+費用